

# 岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL. 16  
2017. 8

TOPICS

1

## 軟式野球部が優勝！ 中国五大学学生競技大会夏季大会



第68回中国五大学学生競技大会夏季大会「軟式野球の部」が8月22～23日、岡山県総合グラウンド野球場で行われ、本学軟式野球部が3年ぶりに優勝しました。

本大会はトーナメント形式で、本学のほか鳥取大学、島根大学、広島大学、山口大学が参加。決勝は山口大学との対戦で、四球をきっかけに2点を先取し、最終回、相手の猛攻を振り切り2対1で勝利。3年ぶりに優勝カップを手に入れました。

同部は8月27日～9月2日、奈良県橿原市の佐藤薬品スタジアムなどで開かれる「全日本学生軟式野球選手権大会」に出場します。同大会に向け赤枝主将は「今回の優勝を全国大会への弾みとし、全国制覇目指して全員で頑張りたい」と意気込みを語りました。

参考 [http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id6923.html](http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id6923.html)

## 空家対策で産官学が 「おかやま空家対策研究会」を発足

TOPICS

2

岡山大学や、岡山市、倉敷市、金融機関など産官学で地域の課題解決に取り組む「おかやま地域発展協議体」(事務局:岡山大)は8月17日、空家対策や利活用を協議する「おかやま空家対策研究会」を発足。同日、初会合を岡山大学創立五十周年記念館で開催しました。

研究会では、本学大学院環境生命科学研究科の氏原岳人准教授が独自の調査結果をもとにした報告や提言を行ったほか、岡山市、倉敷市の担当者が空家の現状などを紹介。参加した会員と、現状の問題点や今後の議論の方向性について話し合いました。

今後さらに議論を深め、年度内をめどに市街地における空家対策の方向性を確定し、利活用を促進するビジネスモデルの検討や、ビジネスモデルの運用に必要な支援策や規制緩和策の検討を進めていきます。

参考 [http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id6908.html](http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id6908.html)

最近の大学の取り組み

## 「オープンキャンパス2017」を開催



本学は8月5～6日の2日間、津島・鹿田岡地区で「オープンキャンパス2017」を開催しました。天候にも恵まれ、県内外から高校生や保護者ら約2万人が訪れ、「岡大ライフ」を体験しました。

全11学部とグローバル・ディスカバリー・プログラムが、それぞれプログラムを企画。各学部の紹介や入試方法の説明のほか、在学生が案内する研究室見学や、普段は公開していない場所が見学できるキャンパスツアー、在学生との交流会、校友会の活動紹介など、多彩な催しが開かれました。

また、津島キャンパスの学生会館では入試方法や奨学金、留学に関する相談会も開かれ、多数の生徒や保護者が訪れました。

参考 [http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id6894.html](http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id6894.html)

## 在大阪オーストラリア総領事が来学

在大阪オーストラリア総領事館のデイビッド・ローソン総領事が8月9日、本学を訪れ、榎野博史学長を表敬訪問しました。

ローソン総領事と榎野学長は、オーストラリアと岡山大学の学生交流・共同研究状況や、今後の国際連携の強化について意見を交換。ローソン総領事は、オーストラリアと日本は、再生医療分野における共同研究や交流が盛んに行われていることを説明。榎野学長は、岡山大学が基礎研究の核である「研究大学強化支援事業」、臨床研究(実用化)の核である「臨床研究中核病院」、基礎研究と臨床研究を結ぶ「橋渡し研究加速ネットワークプログラム」の三つの核を兼ね備えた研究機関であることを紹介しました。懇談には榎野学長のほか、竹内大二理事・副学長(研究担当)、横井篤文副理事・上級グローバル・アドミニストレーター、稲森岳央准教授が出席しました。

本学は、オーストラリアの7大学と国際交流協定を締結しており、幅広い分野において学生交流や研究交流を行っています。また、岡山県と南オーストラリア州は友好関係25周年を迎えるため、本学とオーストラリアとのさらなる交流強化が期待されます。

参考 [http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id6911.html](http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id6911.html)



## 岡山発のものづくり秘話とは 知財フォーラム2017 第1回を開催



本学研究推進産学官連携機構知的財産本部は8月2日、岡山発のものづくりについて考える「岡山大学知財フォーラム2017 第1回」を、創立五十周年記念館で開催しました。

フォーラムでは、ヤンマー株式会社中央研究所バイオイノベーションセンター倉敷ラボの小西充洋所長が「持続可能な資源循環型の食料生産を実現するためのオープンイノベーション」をテーマに講演。大学や地方自治体などと連携し、さまざまな知識やアイデアを取り入れるオープンイノベーションの考え方や留意点などについて説明しました。

また、カモ井加工紙株式会社の鴨井尚志氏代表取締役社長が「カモ井における商品開発と『mt』誕生秘話」と題して、顧客ニーズの捉え方や物事の多面的な見方などについて紹介しました。

教職員や学生、企業の関係者ら56人が参加。講演後の質疑応答では、事業につながる具体的な技術開発や考え方など、活発な意見交換が行われました。

参考 [http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id6888.html](http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id6888.html)



## 複雑な配管内の情報を 正確な地図として自動生成するへび型ロボットを開発

内閣府総合科学技術・イノベーション会議が主導する革新的研究開発推進プログラム(ImPACT)タフ・ロボティクス・チャレンジにおける研究開発課題「タフな索状ロボットおよび極限ヒューマンインタフェースのための極限制御システムの開発」において、京都大学、早稲田大学、岡山大学大学院自然科学研究科の亀川哲志講師、金沢大学らは、プラント設備の配管内の日常点検や緊急時の点検を目的としたへび型ロボットを開発し、複雑な配管内を走破し、配管内の状況を正確に提供することに成功しました。

参考 [http://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release\\_id487.html](http://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id487.html)



## 植物細胞が真っすぐ伸びる仕組みを解明

岡山大学大学院自然科学研究科の本瀬宏康准教授、高谷彰吾大学院生(博士後期課程3年)、高橋卓教授のグループは、異分野基礎科学研究所の小澤真一郎特任助教、高橋裕一郎教授と、奈良先端科学技術大学院大学らと共同で、モデル植物のシロイヌナズナを用いて、植物細胞が真っすぐ成長するしくみを明らかにしました。本研究成果は8月10日、英国の科学雑誌「Scientific Reports」に掲載されました。

本瀬准教授らの研究グループは、植物細胞が真っすぐ成長するのに必要なタンパク質、NIMA関連キナーゼ6(NEK6)の機能を解明。NEK6は、変形した微小管や余分な微小管を除去することで、微小管を整列させ、細胞を一定の方向に成長させることが明らかになりました。

参考 [http://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release\\_id485.html](http://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id485.html)

